

アミタ
アミタ

福井教区
福井教区

- ☐ 縁起の教え
- ☐ ご門徒からの問いかけ
- ☐ ご門主をお迎えして
- ☐ 障がいてなんだろう

目次
contents



「ゆるされて生きている喜び」
とば まさかず
鳥羽 正和 (若狭組 徳成寺住職)

発行所 浄土真宗本願寺派 福井教区教務所
〒910-0003 福井市松本4丁目9-21
本願寺福井別院(西別院)内
TEL(0776) 23-2507 FAX(0776) 27-0058

発行人 福井教区教務所長 しま ず えんじょう
鳥頭 円城
編集 御同朋の社会をめざす運動 福井教区委員会
印刷 (有)印刷ショップ フタバ

縁起の教え

若狭組圓成寺住職
福井教区布教団副団長

遠山 信敬

日本人が日常生活で用いる言葉に、縁起という言葉があります。「縁起がいい・悪い」「縁起をかつぐ」「縁起でもない」といふ言い方をしますが、元は仏教の用語で、本来の意味とは全く違うものです。

縁起という言葉は、お釈迦様の悟りの内容を表す大切な教えであり、因縁生起という言葉省略したものです。因縁生起とは、この世の中のすべての現象は、因（直接の原因）と縁（間接の原因）により生じて起こり、果（結果）をもたらしているということです。

一つの例を挙げてみると、庭に花が咲いた（果）のは種があつたから（因）ですが、花が咲くためには、そこに多くの条件（縁）が必要となります。土、水、太陽、人の手間や、種が長雨で腐ったり、

他の生き物に食べられたりしなかったこと等、因は一つでも、縁は無量、無数に有ります。

お釈迦様は、何か特殊なことを説かれたわけではありません。「私が世に出ると出でざるとにかかわらず、この縁起の法は常住である」とご自身が述べられた通り、それまで誰も気づくことが出来なかつた不変の道理を自ら発見し、明らかにされたのです。

●大なる命の世界

ここで、自身に目を向けてみると、日々、私たちは、常に多くの力（縁）を与えられて生きています。この世に生れて来たのは、両親を始め、連綿と受け継がれてきた命の連繋であり、生後は、多くの命に支えられ、太陽・水・空気等の大自然の恵みを受け、動植物

の命を頂きながら、かろつじて成り立っている自分の命であることに気付かされます。

ただ、私達がどれだけ力を与えられていても、生きる命を妨げるような条件（縁）が整つと、命はたちまちにして失われてしまします。多くの事故や様々な病気、最近の、人間の予想をはるかに超えた近代兵器による大量虐殺や環境の改変がもたらした自然災害を見るたびに、世の中が便利で豊かになった半面、生きる縁が次第に狭められているような気さえします。

死の縁を大切に見つめることは、同時に生きる縁を大切にすることであり、私の命を超えて広がる大いなる命の世界に気付くことでもあります。

●誤った見解

顧みれば、原因があつても、そこに多くの縁がなければ結果は生じないことは明白ですが、世の中には、一番大切な縁を軽視するような考え方が、今でも横行しています。

親鸞聖人のお心を基に、
福井教区の寺院・門信徒の皆様へ育てられて136年。
皆さまのお子さまをお念仏の中で育てます。



学校法人 北 陸 学 園

北陸中学校・北陸高等学校

〒910-0017 福井市文京1丁目8番1号 TEL 0776-23-0321 URL www.hokuriku.ed.jp

日常生活の中で、何か不都合なことが続いたりすると、「先祖が迷っているのでは」「お墓が悪いのでは」「厄年だから」と、もともと何の関係の無いものを槍玉に挙げて、これが原因だと決めつけるような考え方。あるいは、悪いことが起こらないようにと、日の良し悪しや方角等、迷信・俗信の根拠になっているものも少なくありません。

中には、今の苦しみは先祖の祟りだと、不安を煽って多額の金銭を要求し、詐欺まがいの事件をおこすような宗教もあります。

また、この世の不幸は、本人の前世(この世に生れ出る前)の行いの結果であると、道理に外れたことを納得させ、その誤った考え方から多くの差別が生れ、温存されてきた歴史があります。

『仏教聖典』の「おしえ」(因縁)の中に、お釈迦様の基本的な教えが、次のような言葉で示されています。「この世の中には、三つの誤った見方がある。もしこれらの見方に

従ってゆくと、この世のすべてのことが否定されることになる。

一つには、ある人は、人間がこの世で経験するどのようなことも、すべて運命であると主張する。

二つには、ある人は、それは神のみ業であるとする。

三つには、またある人は、すべて因も縁もないものであるという。

もしも、すべてが運命によって定まっているならば、この世においては、善いことをするのも、悪いことをするのも、みな運命であり、幸・不幸もすべて運命となつて、運命のほかに何ものも存在しないことになる。

したがって、人びとに、これはしなければならない、これはしてはならないという希望も努力もなくなり、世の中の進歩も改良もないことになる。

次に、神のみ業であるという説も、最後の因も縁もないとする説も、同じ非難があげられ、悪を離れ、善をなそうという意志も努力も意

味もすべてなくなってしまう。

だから、この三つの見方はみな誤っている。どんなことも縁によって生じ、縁によって滅びるものである。それまでの、いろいろな主張をしりぞけて説かれたのが、お釈迦様の縁起の教えです。

●共に生きる道

一切の有情(生きとし生けるもの)はみなもて世々生々の父母兄弟なり(歎異抄)と示された親鸞聖人の言葉も、深い縁起の道理に根ざしたものであることが理解できます。

お釈迦様、親鸞聖人の言葉に触れる時、この世のすべての命は、もとより生かし生かされ、共に生きていることに気付かれます。

ところが、お互いに因となり、縁となり繋がりが合い、支え合って生きている命でありながら、世の中に目を向けると、経済格差・戦争問題・環境汚染・過疎・過密問題等、深刻なことばかりです。また、人格を踏みにじるような差別

やいじめにより、人を見下したり、傷つけたりとといった痛ましい事件が跡を絶たないことは、ほんとうに悲しいことです。

ともすると、自分の周りだけを大切に思うあまり、現実の諸問題に無関心になりがちですが、社会の一員として生きている以上、世の中に自分と関係の無いものはなにひとつありません。親鸞聖人は、「同行をあなづるな」とも同朋にもねんごろに(御消息)と語っておられるように、あらゆる命の尊厳と平等観に立ち、仏様の教えに生きる者は、互いに尊敬の念を持つて生きるべきことを教えられました。

あらゆる人々と共に、厳しい時代を生き抜かれた親鸞聖人の生き方に学ぶ姿勢を忘れず、すべての命を分け隔てなく浄土へ救いたいと願ひ続けてくださる阿弥陀様のお喚び声を聞き、お念仏を申す日々を、共に大切に歩ませて頂きたいと思ひます。

Q
uestion

ご門徒からの問いかけ

A
nswer

Q1 信仰は所詮、心の持ち方の話ではないのですか。

A1 多くの宗教や信仰では、何らかの形で救いが説かれます。それが現実の社会から離れ、心の平安をめざすのか、自らの生きる姿勢が問われるのかは、その教えによって違いが生じる所でしょう。

しかし、救済後の世界があるということは、裏を返せば現実社会にある様々な問題や矛盾を指摘できる世界観を持つということなのです。それはつまり、み教えを通じてめざすべき社会のあり方や生き方を、自らの人生の上に明らかにすることが出来るということです。

そもそも、「心の持ち方」とは実に曖昧です。例えば「思い込み」と「思い入れ」では、深さが増すほど結果に大きな開きが生じます。

疑念を持たないことは両者に共通

していても、それが何に対してなのかは明確な違いがあります。思い込みとは、いわば思考停止を意味します。そうなれば、いのちや社会に対する思い入れから芽生えるであろう、現実の生活の中にある種々の課題に対し解決に向けて取り組みもうという指向が生まれる余地はなくなるでしょう。

宗教が国家権力と密着であった時代には、このようにして論理のすり替えを行ってきました。今日の日本で、信教の自由が保障されている所以でもあります。

宗教とは、単に信仰の対象が違ふことのみで判断できるものではありません。信仰から生み出される生き方の方向性、生きる姿勢の上から、自ら信仰と向き合ってゆ

くことが大切なことだと思えます。

Q2 法事には、どんな意味があるのでしょうか。

A2 葬儀に比べ、法事（年忌法要・年回法要とも言う）をお勤めする意味を見出しにくいと感じる人は多いようです。特に三十三回忌や五十回忌ともなると、亡くなった方の事を全く知らない、ということとも決して珍しくありません。

では、縁の深い方が大勢おいでならば、一同で揃ってお迎えしているでしょうか。三回忌・七回忌と重なるごとに、身内だけで法事を済ませたいと考える方も、見受けられるようです。

浄土真宗においては、亡き人の追善という意味づけで法事を勤めることはありません。亡き方の命日をきっかけに、有縁の方々に法座のご縁を結んでいただくことを一番の目的にしています。法座で

すから読経だけでなく、ゆっくり法話に耳を傾けていただきます。

かつては法事で、昼の法座に近隣の方々、夜の法座に親類縁者を招いた例もあります。つまり法事は、済ませるものでなくお迎えするものであり、食事や接待がどうかということとは、二の次だったのです。

自らの人生を振り返るとき、入学式や卒業式を迎えるたび、新たな立場と気持ちの上から、日々の出来事に向き合ってきたように思います。法事も同様に考えてはいかがでしょうか。お念仏を称えつつ、日々のいとなみを問うてゆく。次に迎える法事では、そんな一日を亡き方を偲ぶ多くの方と共に、お迎えしてはいかがでしょうか。

なお、命日より遅れてはいけない“などという心配は、無用であることを申し添えます。

Q3 まだ、お寺にお参りしたことがありません。不安なのですが。

A3 劇場と名のつく建築物は、例
外なく客席のほうに舞台よりも広
くなっています。様々な催しがあつ
ても、主役はあくまで客席の方々
なのだと思ひます。真宗寺院
の多くも、参拝者のスペースが広
く作られており、皆様を心待ちに
しているのがお寺なのだと言つて
良いと思ひます。

お手次寺院(所属寺)があれば、
まずはそちらにお参りされるのが
よろしいでしょう。多くの寺院で
は、掲示板や案内などで法座のお
知らせを行っています。自宅や仕
事場の近くに真宗寺院があれば、
そちらにも参拝されてみてはいか
がでしょうか。親鸞聖人の命日を
機縁にご恩徳を偲ぶ報恩講や、亡
くなった方々を偲びつつ勤める永
代経や盂蘭盆会の他、元旦会や彼
岸会のような時節で勤まる法要も

あります。多くは読経に引続き法
話が勤まります。

また福井別院、吉崎別院でも毎
朝勤まるお晨朝の他、定期的に勤
まる常例法座や由緒にちなんだ法
要も勤まります。事前の申し込み
は不要で、いずれもどなたでも参
拝いただくことができます。さら
に、教区に属する諸団体主催の行
事の中には、布教大会など皆さん
の参拝が期待されている行事もあ
ります。念珠を持参した上で気軽
にお参りいただければと思ひます。
なお、夫婦として生活してゆく
ことの誓いや、誕生した子の健や
かなる成長への願いを仏前に奉告
する仏前結婚式・初参式など、随
時受け付けされている寺院もあり
ますので、お問い合わせ下さい。



福井別院の行事一覧

元旦会 1月1日午前0時〜
春季彼岸会 春分の日の前後3日間
宗祖降誕会 5月21日
おはよう講座 7月26日〜30日
秋季彼岸会 秋分の日の前後3日間
報恩講 12月4日〜7日
除夜会 12月31日午後11時30分
※常例法座

毎月 2日・3日午前10時〜
4日〜6日午後1時〜
14日〜16日午後1時〜

○初参式(降誕会に併修)

○仏前結婚式 随時受け付け

○お晨朝 4月〜10月は午前6時
11月〜3月は午前6時30分

吉崎別院の行事一覧

元旦会 1月1日午前0時〜
春季彼岸会 春分の日
蓮如上人御忌法要 4月27日〜5月1日
宗祖降誕会 7月21日
報恩講 8月7日〜9日
秋季彼岸会 秋分の日
除夜会 12月31日午後5時30分

お問合せ:

(0776) 7511903

法衣・幕・旗・記念品・寺院用仏具
社寺建築・稚児貸衣裳・仏壇

北山法衣仏具株式会社

〒910-0003 福井市松本3丁目13-16(西別院前)

フリーダイヤル 0120-52-1844

TEL (0776) 25-1844

FAX (0776) 25-9108

ホームページ <http://www.kitayama.cc>

E-mail kitayama@kitayama.cc

有限会社

松川仏壇

本店 福井市新田塚1-87-13

TEL (0776) 27-5538

関東出張所

TEL (047) 711-6958



松川仏壇

検索

25

ご門主をお迎えして

専如^{せんよ}ご門主^{もんしゅ}が来福^{らいふく}され、7月21日には、円陵^{えんりやう}教堂・福井別院^{ふくいべつえん}を22日には吉崎別院^{よしざきべつえん}をご巡^{しゅん}拝^{はい}になりました。盛大^{せいたい}に記念式典^{きねんしきてん}や記念行事^{きねんぎこうじ}が開催^{かいさい}され、大勢^{たいせい}の方々がこのご縁^{えん}にお参^{まゐ}りくださいました。



○福井別院の記念式典

Ⅱ 若者^{わかしゅ}との懇談^{こんだん} Ⅱ

両日とも、最初^{さいしゆ}にご門主^{もんしゅ}と10代から30代の若者^{わかしゅ}による懇談^{こんだん}会^{かい}が開かれました。福井別院^{ふくいべつえん}では「子ども・若者^{わかしゅ}のご縁^{えん}づくり」をテーマに、日頃の体験^{たいけん}や考えを^をご門主^{もんしゅ}にお伝え^{つた}えてご門主^{もんしゅ}との懇談^{こんだん}が行^{おこ}われました。時折^{ときとき}笑い声^{わらいこゑ}も混^まじりつつ和^{なご}やかな雰囲気^{ふんいき}のなか、予定^{よてい}より大幅^{たふく}に時間^{じかん}を超^こえた懇談^{こんだん}会^{かい}でした。

下川^{かみがわ}佳恵^{けいゑ}さん(10代)

北陸^{ほくりく}高校^{こうこう}宗教^{しやうきやう}教育部^{きやうぶ}

近くのお寺^{てら}の日曜^{にちよう}学校^{がっこう}に参加^{さんか}しています。毎年^{まいねん}夏の催^{もよほ}しには大勢^{たいせい}の方が参加^{さんか}します。近隣^{きんりん}のお寺^{てら}が協力^{きやうりき}して行事^{ぎこうじ}を開催^{かいさい}すれば大きな力^{ちから}になるんだなと思^{おも}ったことをお話^わしました。

高岸^{たかぎ}孝博^{こうはく}さん(30代)

西別院^{さいべつえん}仏教^{ぶつぎやう}青年^{せいねん}会^{かい}会長^{かいちやう}

お手次^{おてつぎ}ぎのお寺^{てら}の住職^{しゆしやく}に勧め^められて6年^{ねん}ほど前から西別院^{さいべつえん}仏教^{ぶつぎやう}青年^{せいねん}会^{かい}に参加^{さんか}して今^{いま}にいたることや、うちのお寺^{てら}が属^{ぞく}する阪南^{はんなん}組^{ぐみ}で大勢^{たいせい}の門徒^{もんた}推進^{すいしん}員^{いん}の方^{かた}々々も協力^{きやうりき}して開催^{かいさい}されるキッズサンガに集^あうた^たくさんの子^こどもたち^{たち}のことをお話^わしました。

ご門主^{もんしゅ}からは、ひとくちに仏教^{ぶつぎやう}青年^{せいねん}会^{かい}といつても、10代^{じゅうだい}の中高生^{ちゅうこうせい}や20代^{にじゅうだい}、若い子^{わかいこ}連れ世^よ代^{だい}など年齢^{ねんれい}層^{そう}による活動^{くわつどう}の違い^{ちがひ}の難^{がた}しさや、お寺^{てら}は孤^こ立^{りつ}した方^{かた}々々も集^あえる居場^{いば}所^{じょ}であつて欲しい^{ほしい}というお話^わを聞^きかせていただきました。

Ⅱ 福井別院^{ふくいべつえん}の記念式典^{きねんしきてん} Ⅱ

福井別院^{ふくいべつえん}の記念式典^{きねんしきてん}では、ご門主^{もんしゅ}も満堂^{まんどう}の参拜^{さんはい}者^{しや}とご一緒^{いっしょ}に讃^{さん}仏^{ぶつ}偈^げをお勤^{きん}めされ、その声^{こゑ}は堂外^{どうがい}にまで響^{ひび}き渡^{わた}りました。引き続き^{ひきつぎ}ご門主^{もんしゅ}ご自身^{ごしん}により「伝灯^{でんとう}奉告^{ほうこく}法要^{ぽうぎやう}」についてのご消^{しょう}息^{そく}」をご親^{しん}読^{とく}いた



○福井別院の記念行事：白井敦夫^{しらいあつお}カルテット

できました。その後^{そののち}、藤澤^{ふじさわ}信照^{しんてう}特^{とく}命^{めい}布^ふ教^{きやう}使^しの記念布教^{きねんふきやう}に続^{つづ}き、記念行事^{きねんぎこうじ}として、ご門主^{もんしゅ}ご臨席^{りんせき}のもと福井市^{ふくいし}の白井^{しらい}淳夫^{じゆんお}ジャズカルテットによるライブ^{らいうぶ}が催^{もよほ}されました。ライブ^{らいうぶ}の最後^{さいご}には白井^{しらい}さんのアルトサックス^{あるとさくす}のソロプレイ^{ソロぷれい}による旧譜^{きゅうふ}・新譜^{しんふ}両方^{りやうはう}の恩徳^{おんとく}讃^{さん}が堂内^{どうない}を魅^み了^{りやう}しました。ジャズで聴^きく恩徳^{おんとく}讃^{さん}にご門主^{もんしゅ}もお楽^がしみいただいた^いた^たよつです。最後^{さいご}のご門主^{もんしゅ}のお言葉^{おことば}のなかでは、現代^{げんたい}に生きる私^{わたし}たちがお念^{おん}仏^{ぶつ}を依^より処^{じょ}に人生^{じんせい}を歩^あむことの大切^{たいせつ}さ、み教^{きやう}えを次世^{じぎ}代^{だい}に伝^{つた}える大切^{たいせつ}



○吉崎別院の記念行事：嫁おどしの面

さをお話しされました。

本山の伝灯奉告法要参拝のお勧めとともに、9月11日に福井別院を会場として福井教区の若手僧侶たちによって開催される「お御堂ライブ2016」にもお勧めの言葉をいただきました。若い世代に対するご門主の並々ならぬ期待と、これからの時代を見極めていこうとする姿勢が感じられました。

吉崎別院の記念式典

翌日は吉崎別院でも浜縁まで席を設けるほど満堂の参詣者とともに福井別院と同じく記念式典が執り行われ、記念行事が催されました。

た。記念行事は鯖江市の藤本宏美さんによる人形劇「嫁おどしの面」です。福井の民話として、また浄土真宗の説話としても有名な「嫁おどしの面」をご当地福井弁で演じられました。滑稽な中にも明るくたくましく生き抜く女性の姿や老いの寂しさが巧みに表現され、ご門主も笑顔でご覧になっておられました。

お帰りに際しては式台から念力門までつらなるお見送りの方々に親しくお声を掛けられつつ吉崎を後にされたお姿が印象的でした。

ご巡拝参詣者の声

竹内浩美さん(50代)・・・あわら市

福井別院のご巡拝にもお参りし、今日は両親とともに吉崎別院にお参りました。両親の背中を見ながら育った私が、両親を連れてお参りできたことは非常にありがたいご縁でした。

松下千佳さん(9才)・・・あわら市

お母さんと弟と来ました。お言

葉はちょっと難しかったけれど、ご門主様はかつこよかったです。人形劇のとき、「私の前にいうつしい」と言ってくれました。

松田和恵さん(60代)・・・あわら市

ご門主様のお言葉を、こんなに近くで聞くことができて感動的でした。人形劇の感想を述べられた中で、家族共々にお念仏を弘めたいとおっしゃられたこともありがたかったです。子どもたちにも気さくに触れ合われるご様子を拝見し、ほのぼのと身近に感じました。

森安ヒサ子さん(70代)・・・坂井市

お寺さんに声を掛けていただき是非にとお参りました。ご門主様はゆつくりと分かり易いお言葉で次の世代につなぐ大切さをお話し下さいました。この頃はお寺のお参りも少なくなりましたが、今日はこんなにたくさんの方々がお参りになり有り難いことです。



福井教区webサイトがリニューアルしました!
http://fukui-hongwanji.jp

浄土真宗本願寺派 福井教区

福井教区よりのお知らせ・行事予定・教区刊行物
・寺院向け情報が
パソコン・スマートフォンでご覧になれます。

福井教区

障がいってなんだろっ

広報部委員

今小路 祐洋

女子高の同窓会で旧友たちと再会を果たす中、友人を交えて談笑する同年代とおぼしき一人の男性。一体誰？ 近づくと、その人は「男性になった」元クラスメート…

レズ、ゲイ、バイセクシャル、トランスジェンダーの頭文字から付けられたLGBTという言葉、皆さんも一度は耳にしたことがありませんか？ 女性や男性の同性愛者、両性愛者、心と体の性の不一致である方々について、それを性の多様性にとらえ、個性として認めることを私達の文化としていこうという取り組みです。

しかし、その為には越えなければいけない大きな壁があります。その壁とは、当事者が自らの性について語る勇気を持つことをさすのでしょうか。いいえ違います。苦悩している当事者一人に偏見や差別のリスクを背負わせつつ、そ

のことに無関心でい続ける社会そのものです。

障害者差別解消法が本年4月に施行され、行政には不当な差別的取り扱いを禁止すると同時に、合理的配慮を提供することが義務付けられました。また、その他の事業者なども努力する責任があることが明記されました。このような取り組みも、先駆けとなる試みあつてのことです。「障害のある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例」(2007年7月1日施行) 全国初の条例化ということ、議論の緒に就くまでもに喧々囂々の議論があつたと聞きます。

地域全体でも様々な課題が在るにも拘らず、一部の者にのみ有用な事柄に税金を投入することに批判する立場の意見に対し、毎日新聞の論説委員であつた野沢和弘氏(故人)は、こう反論しています。

夜道は危険だから街灯を付けよと人は言う。でもそれは、暗闇だと不自由だと考える人が多いというのが理由でしょ。じゃあ、何かの病気で皆さんの目が見えなくなったらどうなるでしょう。街灯を付けよと騒いでいるが、それを必要としている人はほんの握りの人達だけである。それよりも、地域全体のことを考えてほしい…と。無駄と感ずるか無駄でないと感ずるかは、その人が置かれている立場ひとつでいくらでも変わってしまう。

車椅子に乗っていない今の私は、スロープがなくても何ら困ることはない。でも来年もそう言い続けられるとは限らない。車いすに乗ることになったら、スロープがないことで今まで自由に行き来できた場所のほとんどを、諦めなきゃいけなくなる。皆さんも私と何一つ変わらないのではないのでしょうか。(主文)

今年7月に起こつた相模原障害者施設殺傷事件は、日本中に衝撃を与えました。しかし事件の概要

に比べ、障がいそのものについて見聞きする機会は、必ずしも多くなっているとは思えません。知らない領域に対する不安は誰もが感ずることです。不安を解消するためにも、先ずは知ることです。知れば、何かが変わるでしょう。

障がいに伴う介助など、様々なことも知れば、知りたくなかった私と向き合うことになるかも知れません。それでも知るので。一人だけに苦悩を背負わせないためにも。

編集 集後記

夏休み こどもたちにとっては、思い出づくりの期間である。

本山の児童念仏奉仕団に参加した。御影堂の掃除をするとき、畳の話を聞いた。

表替えはしているが、芯材は建立当時から使われているものもあるとか。

新しいものだけでなく、二百数十年たつてもお参りする人を見守っていてくれる。

本記にもありますように、ご門主が代わられ親鸞聖人より七百余年にわたる浄土真宗のご法義も脈々と伝えられています。今後とも多くの方と共に、み教えをいただきます。

広報部委員 藤原 春天